

# 2015年中期経営計画(15中計)の戦略

## 2015年中期経営計画(15中計)の概要

当社を取り巻く外部環境は著しく変化していますが、非鉄金属の需要は中長期的には拡大し、価格も適正水準に回復するものと考えられます。

よって当社は、引き続き長期ビジョンで掲げた「世界の非鉄リーダー&日本のエクセレントカンパニー」となるべく、ニッケル年間15万トン生産体制と銅30万トン・金30トンの権益分年間生産量、新規の材料製品での経常利益50億円/年、連結売上高1兆円/年・連結当期純利益1,000億円/年をめざし、「資源」、「製

錬」、「材料」の各コアビジネスでの成長戦略を推進していきます。

15中計では当社の成長の基本モデル「種蒔き」「植付け」「育成」「刈取り」のうち「種蒔き」「植付け」に注力することになりますが、外部環境変化への対応力を高めつつ、資源権益獲得による従来型の成長戦略だけでなく、3つのコアビジネスの事業の幹を太くする「拡幅」、事業部門の垣根を越えた「業際事業の展開」などを通じて次なる飛躍を狙います。

## 長期ビジョンに向けた15中計の位置づけ

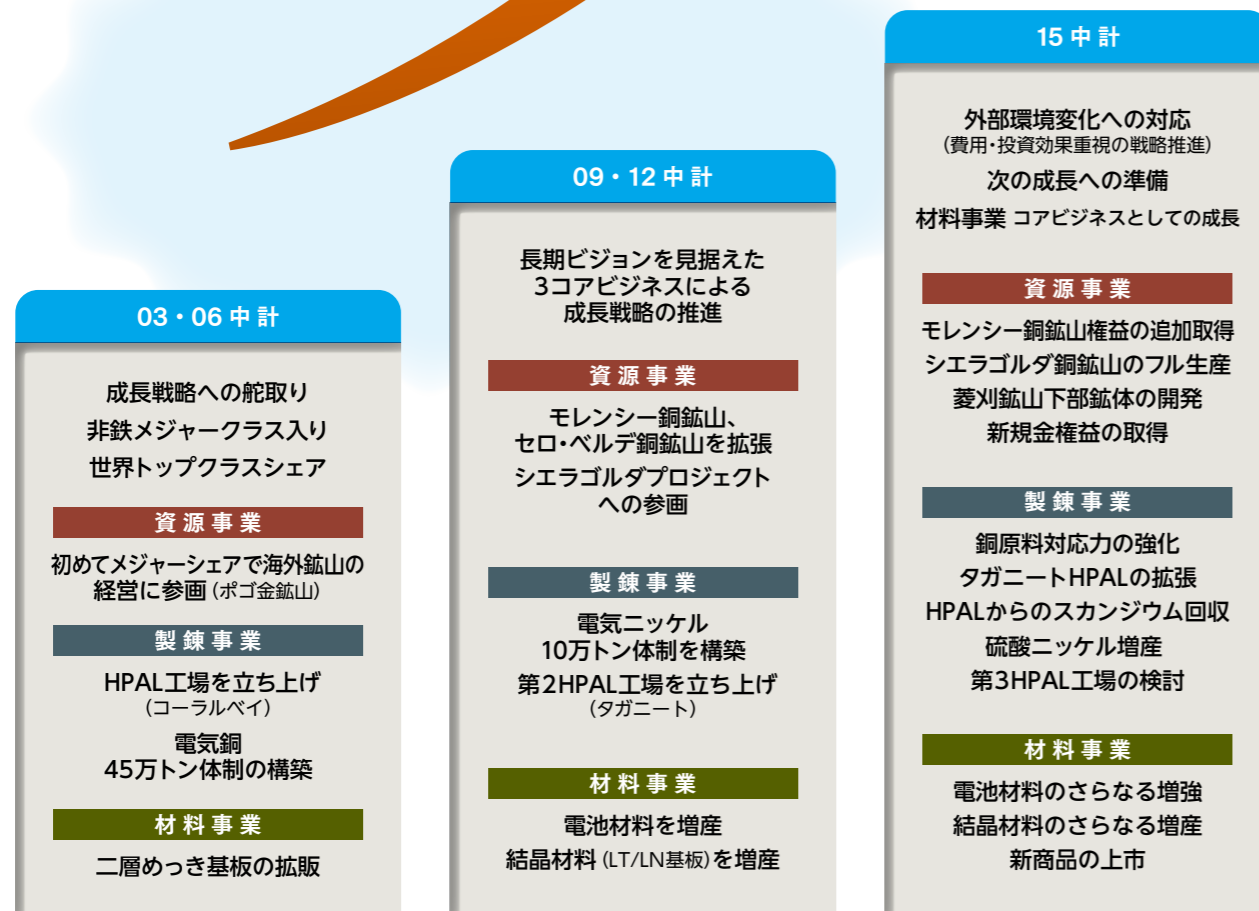
資源・製錬大型プロジェクトの“刈取り”は12中計でおおむね完了

▶ 15中計では次の飛躍に向けた“種蒔き”“植付け”を行う

## 長期ビジョン 世界の非鉄リーダー& 日本のエクセレントカンパニー

長期ビジョン達成に向けたさらなる課題

- ✓ 第3HPAL
- ✓ シエラゴルド Phase2/酸化鉱
- ✓ 新規金鉱山開発
- ✓ 探鉱活動
- ✓ 電池材料増産
- ✓ 材料新規製品



## 2015年中期経営計画(15中計)の最重点事項

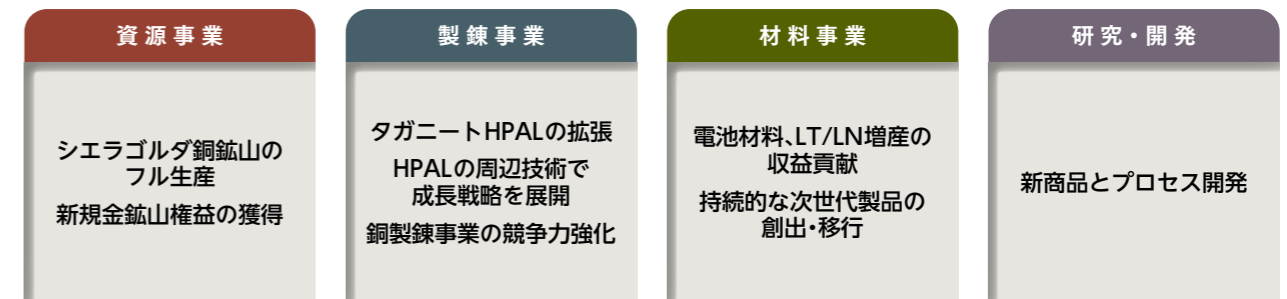
資源事業では、シエラゴルド銅鉱山におけるフル生産の早期実現と、既存鉱山の獲得も視野に入れた金鉱山の獲得により、権益の拡充をめざしていきます。

製錬事業では、ニッケルはタグニートの拡張とHPALからの新金属の回収に取り組み、さらに第3HPAL工場の建設を視野に入れた取り組みを始めます。銅は不純物対応力の向上等を通じ、コスト競争力を強化します。

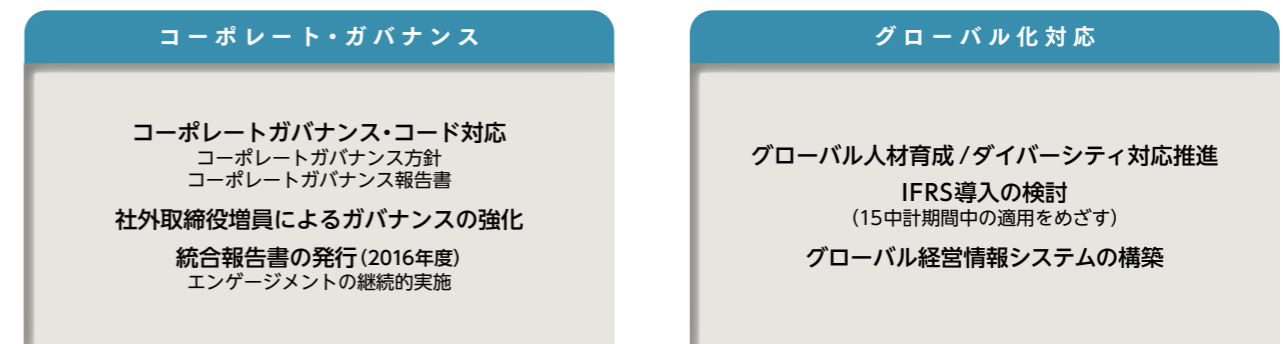
材料事業では電池材料、結晶材料の収益化を図り、

また新商品の投入による成長戦略を推進します。いずれのコアビジネスにおいても、これまで進めてきた戦略や増強投資の効果を活かしていくために生産性の維持向上を図り、より確実な収益の確保をめざしていきます。

研究開発部門は、材料事業の新商品や資源・製錬事業における新プロセスの開発に注力します。本社部門では、IFRSの導入をはじめとしたグローバル化への対応を通じ、経営基盤の一層の強化を図ります。



## 経営基盤の強化



## コーポレート・ガバナンスは、当社グループの企業価値の最大化と健全性の確保を両立させるべく企業活動を規律する枠組み

- ・「住友の事業精神」を基本としたグループ経営理念を定め、役員および従業員の行動基準として「SMMグループ行動基準」を制定
- ・ガバナンスシステムとして、取締役会と執行役員制度および監査役制度の形態を採用
- ・2016年6月開催の株主総会で新たに社外取締役を増員、8名のうち3名が社外取締役

## グローバル化するビジネスへの対応力強化とグローバルスタンダードへのキャッチアップ

- ・人材開発部の創設
- ・国内外の法務リスクに対するサポート体制の確立
- ・海外子会社を包括するキャッシュマネジメントシステムの導入
- ・国際税務に対する社内の専門性強化
- ・IFRS移行によるM&A環境の整備
- ・研修活動や積極的な障がい者雇用などを通じたダイバーシティの実現